

# 国際情報

INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第8号

〒950-2292 新潟市みずき野3丁目1番1号 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuiis.ac.jp URL <http://www.nuiis.ac.jp>

## 「国際」と「情報」

事務局長 小澤 岩

今の大学生の年代の皆さんには、自分の生まれる30年も前の日本の敗戦のことはさほど意識の内にならうこと思います。日本人は外敵の侵入しにくい島国に暮らし、異民族支配による骨身に徹する無念さを味わうこともなく、また、単一民族のため国内で民族間の争いもなく過ごしてきました。初めての敗戦も朝鮮動乱や冷戦の激化により、被占領の辛さをあまり感ずることなく再び独立国家として認められることになりました。

大陸に住み常に異民族と接触し、時に戦って勝つたり負けたりしてきた世界のほとんどの人々とくらべて、日本民族はいかに純真で驅け引きに弱く、自己防衛本能の乏しい民族であるかよくよく自覚しなければなりません。

国と国との間には友情などではなく常に自国の利害を考慮した行動があるのみです。「人間みな同じ人類みな兄弟」では厳しい国際関係を自國に有利に乗り切つてくことはできません。

一世紀近いイデオロギーの対立がなくなつたとたん、民族と宗教の対立が表面化し紛争が多発しています。植民地からやつと開放されたところが武力で併合されたり、外国の頭越しにいきなりミサイルを発射したりなどなど、まだまだ国際社会では力がものをいう場面が多くあります。

北方四島、竹島、尖閣諸島と周辺諸国と領土問題を抱えている状況ひとつをみても、国際友好、国際平和という美しい言葉の蔭にあるものを厳しく透

徹した目で見抜く力を養わなければなりません。

日本民族の情報整視の体質です。国際社会で揉まれていれば自ずから情報収集の必要性を嫌でも感ずるのですが、長い鎖国といったこともあり、国際社会で五角に太刀打ちできる力をつけるのは容易ではありません。

先の大戦では、外交暗号はかなり以前から筒抜け、軍事暗号も何回か解読されているのではという疑惑をもぢながら、その都度「解読されるはずがない」と自己のレベルで相手を判断し、敗戦まで真剣に検討しなかつたことなどその一つの現れです。

明治の初め列強の植民地にされないよう必死に努力し、立派な業績を挙げた先例もあるのに日露戦争後わずか30年ほどで同じ民族と思えないほどの愚行を繰り返し、敗戦にまで至つたことはよくよく肝に銘じておくる必要があるのでしょ。





# 公開講座① パソコン入門



10月で4回目を終了した。40名の定員で募集したが、200名以上の応募があり、急遽10名を拡大して対応した。それでも多くの方にお断りしなければならなかつた。公開講座は回数を重ねるに従い出席率が落ちるのが常だが、この講座は欠席者がほとんどない。パソコンに対する市民の熱意は相当なものである。講師の一人は「皆さん熱心なので学生諸君に教えるより楽し」とおっしゃる。また第一回から「どんなパソコンを買えば良いのか」という質問が多く寄せられた。この機会にパソコンを買おうと考えておられる方が多いようだ。(渡辺忠記)

第一回目の開催は、ハイレベルな活動は、準備運動としてヘアーリング、エアロヨガ、ランニングとしてはマシン及びフロー、エアロヨガ等のエクササイズ、アロマヨガ等で行われた。

第二回目の開催は、身体の自己管理能力の育成に関する情報及び環境の提供という点で意義を有する事業である。(長崎浩爾・藤瀬武彦記)

# 教員の活動

## 明石欽司助教授—安達峰一郎賞を受賞

情報文化学科明石欽司助教授は、本年10月第32回安達峰一郎賞を受賞しました。同賞は、元常設国際司法裁判所長安達峰一郎博士の偉業を記念して、国際法に関する優秀な研究業績の中から毎年一編を表彰するものです。対象となつたのは、本学の平成9年度研究成果公刊助成金を受け出版した次の著作です。

*Cornelius van Bynkershoek: His Role in the History of International Law*  
(Kluwer Law International, The Hague, London, Boston, 1998)



## 宗澤拓郎教授—「P-COMET-9」で発表

今夏7月25-29日に米国ボルチモアで開かれた、P-COMET-9による技術力(ペーパー)に関する国際会議で発表しました。ポーランドはアメリカ西北海岸にある「ロバーツ川」に面した、日本への木材の積み出し港です。オランダの州都ですが、近年インテルをはじめとするハイテク企業が集まつてあり、またナイキの本社もあります。ペーパーナイキ企業で有名になつてきました。夏冬共にこの街がとてもよく大変な街です。今後、ペーパーで5000km走つて、日本の国立公園をめぐり、アメリカの大自然を満喫しました。(宗澤拓郎記)

7月25日

## 原口武彦教授—「コーネジボワール国を訪問

農水省の外事団体、A-CAFE(国際農林業協力協会)の依頼で、8月6日から18日まで、現地調査団の員として西アフリカ・「コーネジボワール国」を訪問した。現地では、同協会が農業協力事業を展開している内陸アフリカ市近郊の農村で、事業の進捗状況、問題点を地域研究者の立場からの観察、評価、助言を行つた。(原口武彦記)

## 蔡建国教授—中国建国50周年記念式典に出席

情報文化学科蔡建国教授は、中華人民共和国成立50周年(1949-1999)に当たつて中国政府の招請を受け、北京の人民大会堂で行われたレセプションや、天安門広場で行われたパレードなどの慶祝行事に参列しました。

## 山口直人助教授—中国広州で国連ワークショップに参加

11月22日-24日、情報文化学科山口直人助教授は、中国政府の要請に基づいて国連(地域開発センター)が開催した「都市計画分野における情報システムの活用を議論するワークショップ」に日本側の代表の一人として招請され、今までの研究成果を発表しました。

selection of contingency table analysis],  
③「Wald criterion for several latent vectors of covariance matrices」  
の3つの題目で研究発表を行いました。

# 公開講座② 健康づくりのための フィットネストレーニング

近い将来の超高齢社会では、高齢者が積極的に社会的役割を果たし、生きがいを持って生活出来る環境づくりと各自が自分の身体を管理出来る能力の育成が望まれている。計3回(10月9日、11月13日、12月11日)かい成る本公開講座の第一回目の講義では、QOLの向上に不可欠な新しい健康の概念について述べると共に、急速に高齢化が進む社会における健康体力の自己管理能力の必要性について詳説した。フィットネス理論としては、形態と体力の評価方法及びトレーニング効果と生活習慣病の予防・改善について解説した。

# 公開講座③ 映画の中の市民社会

今年5月から7月にかけて開講し、好評のうちに終了した公開講座「映画の中の市民社会」の番外編として、11月20日(土)新潟市民映画館シネ・ワインでにおいて映画上映と講演を行つた。上映作品は、69年度アカデミー外国語映画賞を獲得した「ハンス・アルジエリア合作の政治サスペンス映画『N』」で、情報文化学科越智敏夫助教授が講演した。

# 公開講座④ 映画の中の市民社会

1.実施月日／10月2日(土)・10月16日(土)  
10月30日(土)・11月13日(土)  
2.時間／13:30-16:30  
3.内容／①パソコン入門  
②インターネット入門  
③ワープロ(Word)入門  
④表計算(Excel)入門  
4.対象者／一般市民  
5.県民力レバジ、(いがたマルチメディアワールド)in新潟に参加

「情報システム特論」を市民に公開

昨年に引き続き、情報システム学科3年次生向け講義である「情報システム特論」を市民の皆さんに公開してづる。この講義は、実社会で活躍している方々からの情報システムに関する最新の動向をお話し頂くもので、10月-12月の第一、第三土曜日に計五回実施予定である。すでに三回実施したが、毎回、学生百数十名に加え、一般社会人の方々二十名前後が参加され、活発な質疑応答があつた。講義内容は、「情報収集の現状と課題 柴田亮介(電通リサーチ)」、「ワードエクセル管理の体験的方法論 有井正雄(都築電気)」、「電子商取引の現状と将来 村井秀一(電子商取引実証推進協議会)」、「銀行の情報システム—昨日・今日・明日」岩丸良明(さくら総合研究所)、「県の情報化の現状と施策」松村 雅一(新潟県庁)、「県の情報産業の現状と振興策」由良英雄(新潟県庁)。(市川照久記)

## 塚田真一講師—国際統計学会で発表

情報システム学科塚田真一講師は、10月29日-31日に開催された日本統計学会にて、「Information Systems in Japan」を題材に、「Power comparison of Flury criterion, Sohott criterion and Wald criterion on the test of several latent vectors」として発表を行つた。また、8月10日-18日(17)「Finite corrections of Akaike's information criteria for model selection of contingency table analysis」、「Wald criterion for several latent vectors of covariance matrices」の3つの題目で研究発表を行つた。

## 蔡建国教授—中国建国50周年記念式典に出席

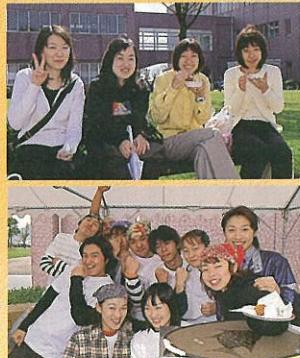
情報文化学科蔡建国教授は、中華人民共和国成立50周年(1949-1999)に当たつて中国政府の招請を受け、北京の人民大会堂で行われたレセプションや、天安門広場で行われたパレードなどの慶祝行事に参列しました。

## 山口直人助教授—中国広州で国連ワークショップに参加

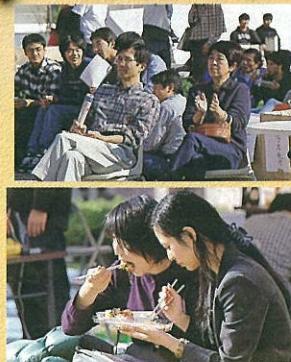
11月22日-24日、情報文化学科山口直人助教授は、中国政府の要請に基づいて国連(地域開発センター)が開催した「都市計画分野における情報システムの活用を議論するワークショップ」に日本側の代表の一人として招請され、今までの研究成果を発表しました。

忘れられない思い出が、また一つ胸に刻まれる。

# 第6回紅翔祭 開催



今年で6回目を迎えた紅翔祭。  
『新時代宣言』というテーマのもとに、  
10月23日(土)・24日(日)の2日間にわたり、  
盛大に開催されました。  
お天気にも恵まれた紅翔祭2日目の日曜日には、  
父母会や地元の赤塚から大勢の方々に  
ご来場いただきました。  
この日のメインイベントは「山田洋次監督 文化講演会」。  
予定していた入場者数をはるかに上回る  
大盛況となりました。



一人芝居ライブが学生に大ウケ。

## 「小林へろ氏語り」

23日のメインイベントは、地元・新潟で活躍する小林へろさんの「一人芝居ライブ」。おとぎ話や昔話をモチーフに現代風刺を盛り込んだ「語り」です。へろさんの熱演と軽快なトークに、会場は爆笑につつまれ、あちこちから声援が送られていました。



## 「山田洋次監督 文化講演会」 ～寅さんと学校～

24日の文化講演会では、映画撮影時のエピソードなどを山田洋次監督にお話しいただきました。なかでも、渥美清さんと山田洋次監督が知り合いのテキ屋をヒントに「寅さん」を生みだしたという話は、父母会の方々に大変好評でした。



### ●中国語劇「三国志」

土・日曜日の2回にわたり、中国語劇「三国志」が公演されました。今年は、せりふに日本語を織りませたため、中国語が分からぬ人でも演劇を楽しむことができました。



### ●お茶会

茶道部が日ごろの練習の成果を発表したお茶会。学生たちが普段くつろいでいるロビーも、紅翔祭当日には畳三畳分の「和風喫茶コーナー」となりました。



### ●模擬店

飲食物のお店やゲーム、研究成果を発表する展示が、中庭や教室にたくさん並びました。おでんや焼きそばなどの味も評判良く、売れ行きは好調。行列ができるほど繁盛したお店もありました。



### ●英語スピーチコンテスト

今年は6人の学生が参加。コンテストでは、内容や発音、声の大きさ、身振り・手振りまでもが審査の対象となります。出場者の堂々としたスピーチに、会場から拍手が寄せられていました。



### 「紅翔祭を振り返って」

紅翔祭実行委員長 岡本直人  
(情報文化学科2年)

本年度は当初、紅翔祭実行委員長が選出されていませんでした。

昨年の選挙時に実行委員長の立候補者が誰もいなかつたため、本年度に入ってから全学委員会で学友会に選出が一任され、私に白羽の矢が立ちました。振り返ってみると私は、この大役を無事に果たせたのであろうか。実行委員長として仕事をしていたのだろうか。危機感を持って仕事をしていたのだろうか。一部の人間だけで問題を解決しようとする傾向があったのではないかだろうか。自分たちだけ忙しい素振りをしていたのではないかだろうか。考えてみると反省点ばかりが頭に浮かびます。今年の紅翔祭は、実行委員が2年生主体だったため右も左も分からぬ状態で準備が始まりました。

いざ紅翔祭が始まってみて一番感じた事は、皆に楽しんでもらえたかという事です。いかに多くの人に楽しんでもらえるかという事を考えて、ステージイベント等、企画で頭を悩ませました。また、これは自分だけが感じている事かも知れませんが、学生の参加が少なかったように感じます。より良い紅翔祭にするために、多くの人の協力が必要だと感じました。

実行委員会としても今年の反省を活かし、皆さんの希望に添えるよう努力していきます。数々の不手際で多くの人に迷惑を掛けた事を、この場でお詫び申し上げたいと思います。協力して下さった皆さんに厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

# NUIS学生の生活と意見

~ライフスタイル調査から~

田ゼミでは、学生それぞれが独自のテーマで、特定の産業界あるいは、企業のマーケティングの研究をしています。その研究の中で、今後のマーケティング戦略提案の参考に、それぞれの商品や小売店について、消費者の意見を探るために平成十二年九月三十日(木)に本学の講義「マーケティング」受講生を対象にアンケート調査を行いました。その中で印象的な結果が得られたものを報告します。

## 1. 小遣いについて

小遣いの使い道について聞いたところ、第二位は買物(31%)、第一位は電話料金(22%)、第三位は外食(18%)と、おおよそ予想通りの回答が得られました。ついで第一位が「あまり買わない」がちなものに回答が集中したようです。(図1)

小遣いの金額では第一位は1万円以下(24%)、同数で1~2万円(24%)、これに次ぐ第三位は4~5万円(18%)でした。それにしても3~4万円を飛び越しての結果に驚きました。おそらくアルバイトをしている人としていない人の差だと思われます。この結果から、アルバイトをしている人は月に4~5万円稼いでいると言えます。(図2)

図2 小遣いの金額

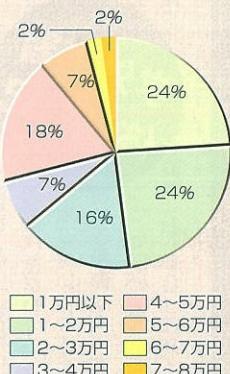


図1 小遣いの使い道

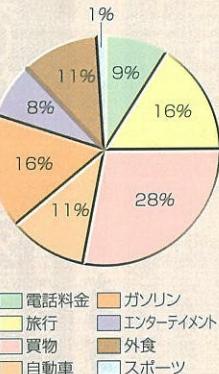


図4 1ヶ月に買うCDの枚数

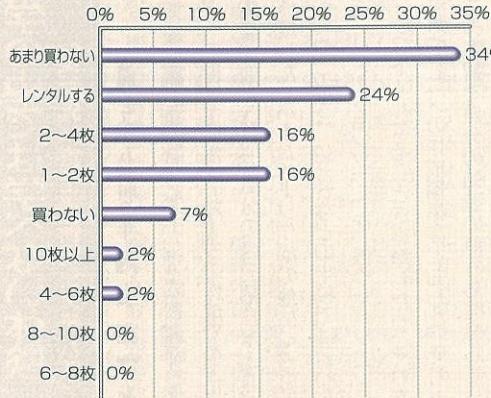


図3 よく利用するCD店

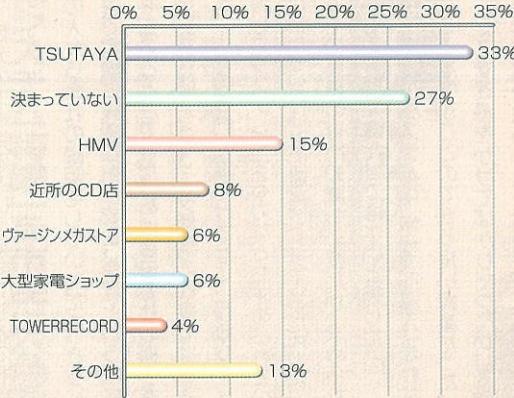


図6 テレビCMの好感度要因

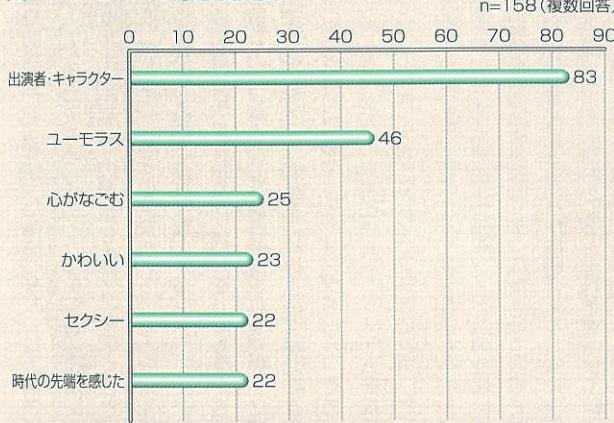


図5 好きなテレビCM

スponsorer名	商品名	回答数	
第1位	DDI	エッヂ	9
第2位	セガ	ドリームキャスト	6
第3位	サントリー	ボス	4
武富士	武富士	4	
ドコモ	iモード	4	
トヨタ	キャミ	4	
日清	カップヌードル	4	
第4位	キリン	ラガー	3
タカラ	カンチューハイ	3	
トヨタ	セリカ	3	
トヨタ	ファンカーゴ	3	

図8 コンビニにして欲しいサービス

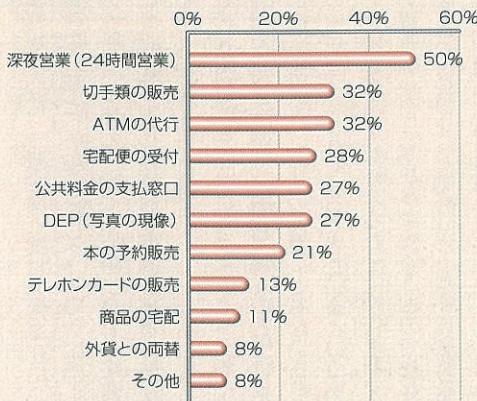
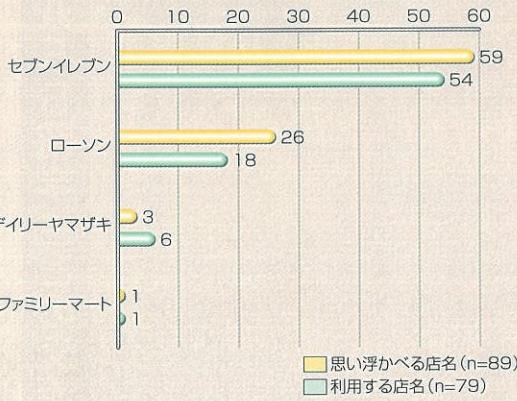


図7 コンビニの知名度と利用度



なお、詳しい調査結果をご希望の方はs96178yj@nus.ac.jpまでメールをください。お送りいたします。(情報システム学科4年 山口潤)

マーケティング研究会(正)

2. CDについて

よく利用するCD店はどこかという質問では、第一位がTSUTAYA(33%)、第二位は決まっていない(27%)で、次いでHMV(15%)でした。(図3) 1ヶ月に買うCDの枚数の第一位は、あまり買わない(34%)、次いで第一位がレンタルする(24%)と、いう結果でした。購入する人でも2~4枚、1~2枚がそれぞれ16%でした。このことから、CDを購入する人は少ないと言えるでしょう。(図4)

3. テレビCMについて

好きなCMのランキングは、第一位がDDIのエッヂ、第二位がセガのドリームキャスト、第三位にサンタリー、武富士、ドコモ、トヨタ、日清となっていました。テレビCMの好感を持つ理由としては、第一位が出演者・キャラクター(52%)、第二位はユーモラス(29%)、次いで、心がなごむ、かわいい、時代の先端を感じた、セクシーである、の順となりました。(図6)

4. コンビニについて

学生の生活にとって身近なコンビニについて聞いたところ、もっとも名前を知っているのはセブンイレブン(67%)が圧倒的で、第二位はローソン(26%)、第三位はリーヤマザキ(3%)でした。(図7) コンビニに実施して欲しいサービスとしては、「24時間営業」が第1位となりました。上位には生活に密接したものがランクインしていて、特にATM業務は未だ多くの店舗でしか行われていないが、32%もの大きな要望があります。(図8)

# 学外実習 体験記

## 楽しかった学外実習

(実習先／JA電算センター)

情報システム学科3年 太田 清華

私は新潟県の重要な産物であるお米について前々から興味があり、それに関わっているJA電算センターを学外実習先に選びました。初日のお話を、JAは農業だけではなく、信用事業(金融や病院の業務など様々な分野で活躍しており、JA電算センターはそれらの業務の中心となるシステムを総合オンラインで管理している所である事を知りました。ですから、コンピュータの実験が少ない私がお米とは大きくかけ離れた重大な仕事を二週間しなければならないと思うと不安でした。しかし実際に研修してみると、自分で見て学ぶ事が多く、学校の授業で出てきた用語などの意味をよく理解する事ができました。また、ホームページの作成やプログラムを組む作業もありましたが、社員の方々が一つ一つ丁寧に教えて下さったので、分からぬ所なく作成できました。新潟国際情報大学から就職した二人の先輩も一緒に研修する機会もあり、会社の仕事や就職活動などのお話を聞いてためになりました。

私はこの研修で、疑問に思つ所を常に質問することに心掛け、積極性を身に付ける事ができました。そして、全ての部署の仕事を一通り学び、会社といふものの仕組みを把握できました。また、周りの方々が優しく接して下さったので会社に対する不安がなくなり、こんな会社に就職したいと将来の方向性が見えてきました。短い間でしたが、得るもののが沢山ある充実した日々を送り、学校では学ぶ事のできない貴重な体験をすることができました。本当に楽しい学外実習をすることができて良かったです。

## 大学の中では学べない体験

(実習先／富士通新潟システムズ)

情報システム学科3年 内山 あさと

学外実習で富士通新潟システムズに2週間お世話になりました。実習は主にホームページの作成でした。写真や画像を取り込んで自分の自己紹介ホームページを作成した。ホームページ作成の他に、Photo Enhancerや Paint Shopなどの学校では習わなかつたアフリケーションソフトを、借りたパソコンに自分でインストールすることを経験したり、それを使って写真やアーティスの作成編集などもした。それと同時にこの実習で自分の知識の無さも実感してしまったが、自分の力を知るという意味でもとても勉強になった。

会社の人から会社の説明をしていただき、さらに自分の目で実際に見ることができ、会社という組織の様子を知ることができた。私は毎日会社の様子を見て、この会社はコンピュータ関係の仕事ではあるがコンピュータの専門知識だけでなく、行政サービスを把握してシステム化する力なども求められていると気付いた。これはどの職種でも言えるだろうが、働く上でその業種の専門知識も必要だが、求められるものはその専門知識だけではないと感じた。

この学外実習のシステムは、学校では学びきれない色々なことを学ぶことができる良い授業だった。何も役に立てる迷惑をかけてばかりだったが、実際の会社の雰囲気を味わうことができたし実際の情報システムに触れることができ、とても良い経験をした。今回の実習を通じて学んだことを残りの大学生活に生かしたい。

## 学外実習で経験できたこと

(実習先／三菱ガス化学)

情報システム学科3年 小池 洋一

三菱ガス化学に実習に行って学んだことは、情報システム構築の実際の方法である。三菱ガス化学では、

かなり前からLANを使った情報システムを構築、使っていたそつである。そのシステムを構築された、担当グループの方々の貴重な体験話を聴くことができた。そして、システム開発のウォーターフォールモデルの具体的な構築方法を教えて頂いた。

実習の最後に、来年までに構築をするシステムの基本設計のために、現在の業務の流れをフローに書いて、写真やアーティスの作成編集などもした。それと同時にこの実習で自分の知識の無さも実感してしまったが、自分の力を知るという意味でもとても勉強になった。

この実習中、最も印象に残つたことは実際に古町話にいた。実習は主にホームページの作成であった。写真や画像を取り込んで自分の自己紹介ホームページを作成した。ホームページ作成の他に、Photo Enhancerや Paint Shopなどの学校では習わなかつたアフリケーションソフトを、借りたパソコンに自分でインストールすることを経験したり、それを使って写真やアーティスの作成編集などもした。それと同時にこの実習で自分の知識の無さも実感してしまったが、自分の力を知るという意味でもとても勉強になった。

会社の人から会社の説明をしていただき、さらに自分の目で実際に見ることができ、会社という組織の様子を知ることができた。私は毎日会社の様子を見て、この会社はコンピュータ関係の仕事ではあるがコンピュータの専門知識だけでなく、行政サービスを把握してシステム化する力なども求められていると気付いた。これはどの職種でも言えるだろうが、働く上でその業種の専門知識も必要だが、求められるものはその専門知識だけではないと感じた。

この学外実習のシステムは、学校では学びきれない色々なことを学ぶことができる良い授業だった。何も役に立てる迷惑をかけてばかりだったが、実際の会社の雰囲気を味わうことができたし実際の情報システムに触れることができ、とても良い経験をした。今回の実習を通じて学んだことを残りの大学生活に生かしたい。

この実習中、最も印象に残つたことは実際に古町商店街で役員の方の話を聞き、現在の古町の状況を聞いたことでした。万代の発展にともない古町は以前のような活気がなくなってきたという小売業者の中でも、実習を通じて、大変有意義な実習になったと思っています。

この実習中、最も印象に残つたことは実際に古町商店街で役員の方の話を聞き、現在の古町の状況を聞いたことでした。万代の発展にともない古町は以前のような活気がなくなってきたという小売業者の中でも、実習を通じて、大変有意義な実習になったと思っています。

## AFS留学生との交流

11月8日(月)から同12日(金)までの5日間、アン

ソ君ら10名のAFS留学生(男女各5名)、アメリカ2名、タイ、フランス、インドネシア、ボリビア、コスタリカ、ユーコージーランド、オーストラリア各1名)が本学を訪問し、本学からは率先して学生12名がパートナーとして案内役を勤めてくれた。短期間の体験留学とはいえ、各講義をはじめ実習やゼミに参加し、ときには母国語の披露なども行われ、とにかくトン君(タイ)の珍しいタイ語の紹介や、ナ

タリアさん(コスタリカ)の見事な日本語の発音などが印象的であった。とくに今年は本学学生の主催による学生間の対話集会も行われた。最終日の夕刻には「さよならパーティー」があり別れを惜しみながら、留学生たちは口を揃えてグッズ体験だったと述べていた。ちなみに今年の訪日留学生は約100名うち1割が新潟県内にステイしている。(海野芳郎記)

## 商工会議所の役割がわかつた

(実習先／新潟商工会議所)

情報システム学科3年 川上 碇生

私は商工会議所という場所に以前から興味があり、詳しく知るよい機会だと思いこの場を実習先に選択しました。今回の学外実習を通して、様々なことを学べたと思います。まず商工会議所の地域における役割や構成する各課の説明を受けたことに始まり、この実習の目的でもある情報システムについても、オフコラからパソコンへの移行それに伴う各商工会議所のオンライン化、バーコードの登録業務、各種検定業務のデータの取り扱い等、商工会議所の特別

な業務を中心にして、一般企業と同じ通常業務についても実習の一部として学びました。その他に商工会議所の性格上、業務の一つである中小企業の経営相談といつ点から、商工会議所と各商工業者の繋がりも知ることもできました。

この実習中、最も印象に残つたことは実際に古町商店街で役員の方の話を聞き、現在の古町の状況を聞いたことでした。万代の発展にともない古町は以前のような活気がなくなってきたという小売業者の中でも、実習を通じて、大変有意義な実習になったと思っています。

## 1999年度 軟式野球部 戰績

## ■第22回全日本大学軟式野球選手権大会

- 1-12 (8回コールド) 白鷗大学
- 1回戦敗退

## ■春季リーグ戦

- 11- 4 (7回コールド) 新潟経営大学
- 4- 3 新潟工業短期大学
- 2- 7 新潟薬科大学
- 9- 1 (5回コールド) 新潟大学全学部
- 12- 1 (5回コールド) 新潟歯科大学
- 7- 4 新潟大学医学部
- 12- 3 (5回コールド) 新潟大学歯学部
- 10- 3 (5回コールド) 長岡造形大学

優勝 対戦成績 7勝1敗

## ■秋季リーグ戦

- 3- 0 長岡造形大学
- 10- 0 (5回コールド) 新潟工科大学
- 2-13 (8回コールド) 新潟経営大学
- 1- 0 新潟大学全学部
- 9- 4 新潟大学医学部
- 2- 5 新潟歯科大学
- 11- 1 (6回コールド) 新潟大学歯学部
- 8- 2 新潟薬科大学
- 不戦勝 新潟工業短期大学

3位 対戦成績 7勝2敗

今年度の全国大会は、奈良市を舞台に真夏の炎天下のもとに開催された。8月20日、地方大会を勝ち抜いてきた精鋭22大学の一つとして本学チームも入場式に臨んだ。翌21日、わがチームは北関東の強豪、白鷗大学と対戦、5回までは1対1の緊迫した好試合を開催したが、6回、それまで好調を続けていた遠藤がスタミナ切れで突如として崩れ、8回、1対12の「コールド」という思いがけない惨敗を喫してしまった。酷暑の中、夜行列車による移動といつ悪条件が重なったとはいっても、選手の健康管理の大切さを痛感させられる結果であった。(原口 武彦記)

春のリーグ戦では、新潟薬科大学に2対7で惜敗したものの、他の7大学との対戦中、5試合は「コールド・ゲーム勝ち」という圧倒的強さを發揮した優勝であった。昨年に引き続き、軟式野球部は、春の新潟地区リーグ戦に優勝し、全日本大学軟式野球選手権大会に出席することができた。

春のリーグ戦では、新潟薬科大学に2対7で惜敗したものの、他の7大学との対戦中、5試合は「コールド・ゲーム勝ち」という圧倒的強さを發揮した優勝であった。

# 軟式野球部 全国大会出場

第10回フレッシュマン英語ディスカッション  
6月26~27日  
in金沢大学

出場者: 上村一夫・桑野誠・横山新平(システム1年)  
佐々木伸浩(文化4年)  
大会成績: 英語ディスカッション大会…4名全員合格

第44回夏の英語交流会  
8月5~8日  
in福井大学

出場者: 西山涼子・上村一夫・桑野誠・横山新平(システム1年)  
佐々木伸浩(文化4年)  
大会成績: 英語ドラマ大会…1位桑野組・3位横山組  
英語討論大会…5名全員合格

韓国語を学んだ  
過程を、韓国語との  
「試合」に例えたも  
のでした。



▲前列右から3人目が入賞した金丸さん

## 新潟国際情報大学 奨学生決まる

この度本年度奨学生が次の通り決まりました。この賞は学業のみならず、課外活動等の活躍、また卒業後も同窓生として活躍が期待できると思われる2年次以上の学生を対象に教職員の推薦により決まるものです。

- 4年次生 情報システム学科 山口潤・山田一洋
- 3年次生 情報システム学科 佐々木伸浩・荒木麻衣子
- 2年次生 情報文化学科 堀博英
- 松田美紀

## E・S・S・(英語会)が 北信越英語会連盟 主催の大会で活躍

## 第2回韓国・朝鮮語 スピーチコンテストで入賞

10月23日(土)に第2回韓国・朝鮮語スピーチコンテスト(同実行委員会主催)が新潟市民プラザ(NEXT 21・6階)で開催されました。これには情報文化学科広瀬貢三助教授が実行委員長を務め、本学は実行委員会構成団体の一つとして、積極的な支援を行いました。

本学からは3名の学生(情報文化学科2年金丸佳代さん、同3年荒木玲子さん、館川千津さん)が第一部の奨励賞(3位)を受賞しました。

審査の結果、金丸さんが第一部の奨励賞(3位)を受賞しました。

金丸さんのスピーチは「ソフトボールと韓国」と題して、ソフトボールを通じて

E・S・S・(代表情報文化学科4年)佐々木伸浩は、北信越英語会連盟主催の各種大会に参加し、以下のようないい成績を収めた。また、10月7日に東京有楽町朝日ホールにて開かれた、「TODEIC 20周年記念シンポジウム」(テーマは、「これからグローバル」ミューーションとしての英語)にも参加した。

10月23日(土)に第2回韓国・朝鮮語スピーチコンテスト(同実行委員会主催)が新潟市民プラザ(NEXT 21・6階)で開催されました。これには情報文化学科広瀬貢三助教授が実行委員長を務め、本学は実行委員会構成団体の一つとして、積極的な支援を行いました。

本学からは3名の学生(情報文化学科2年金丸佳代さん、同3年荒木玲子さん、館川千津さん)が第一部の奨励賞(3位)を受賞しました。

審査の結果、金丸さんが第一部の奨励賞(3位)を受賞しました。

金丸さんのスピーチは「ソフトボールと韓国」と題して、

全国の強豪大学がひしめく中、第3位という素晴らしい結果を得ることができました。しかし、その大会で得た最も大きなものは、大会の結果ではなく、我々サッカー部の団結力でした。大会で部員全員が試合に出場し、1試合1試合チーム一丸となり戦うことができました。これからも大会、試合を重ね、チーム全体のレベルアップをはかっていきたいと思います。

そこで、夏休みを利用して、長野県菅平で行われた大会に出場しました。それほど大きな大会ではないものの、リーグ優勝を成し遂げ、我々にとっても大きな自信付けることができました。

我々、新潟国際情報大学サッカー部は、発展途上のチームです。今年の北信越トーナメントでは、2回勝敗を重ねたものの、新潟大学に大敗し、北信越のトップレベルのサッカーをさまざまな見せつけられる結果となっていました。しかし、その試合の結果を素直に受けとめ、糧としてのぞんだ県内大学高専リーグでは、全勝でリーグ優勝を成し遂げ、我々にとっても大きな自信付けることができました。

# サッカー部 発展途上チーム頑張る

サッカー部主将 江口陽介  
(情報システム学科2年)



- 女子 60・0 kg級 2位 記録 47.5 kg  
田中結実子(システム3年、陸上競技部)
- 女子 60・0 kg級 3位 記録 45.0 kg  
広安由佳理(文化3年、フィットネス研究会)
- 男子 82・5 kg級 3位 記録 132.5 kg  
藤瀬武彦(情報システム学科助教授)

## ベンチプレス 選手権大会で入賞

10月17日(日)、新潟県ベンチプレス選手権大会が主催の第11回新潟県ベンチプレス選手権大会が本学体育館を会場に開かれた。本学から出場した選手の成績は以下のとおりであった。

● 女子 56・0 kg級 3位 記録 35.0 kg  
白鷗大学由佳理(文化3年、フィットネス研究会)

● 女子 60・0 kg級 2位 記録 47.5 kg  
田中結実子(システム3年、陸上競技部)

● 男子 82・5 kg級 3位 記録 132.5 kg  
藤瀬武彦(情報システム学科助教授)

# 西川時代激まつり出演記

来年の時代激まつりに対する  
プレッシャー

情報文化学科2年

今井 誠



▲舞台中央の代官役は桂三枝師匠です

私にとって西川時代激まつりは今年で二年目になります。昨年は手付役(セリフ付)で参加させていただきました。が、今年は先導役で参加させていただきました。自分

とまあ偉そうなことを言つてしましましたが、実行委員会の皆様には毎年お世話になつており、来年も期待しているのです。そして、私もまた来年参加して、参加者の一人として時代激まつりを盛り上げる事が出来たら…と思つてゐる次第なのです。実は来年も三枝師匠に出演していただけないかな、

といつのが本音です。

導役は先頭で「代官様の御通りじゃ～！」とかけ声をかけながら歩くといつ役です。最初は、とても緊張しましたが、一度声を出し始めたら緊張もほぐれ、リラックスして役に徹する事が出来ました。自分自信とても楽しむことが出来たのではないかと思つてゐます。

## 外修譚

Tessiさんと  
過ごした  
二日間

情報システム学科3年

和田 未有希

Tessiさんはアメリカ研修旅行のときによく一緒にいた先を紹介してもらつたり、案内までしてもらつてとてもお世話になつた。彼女とはそれ以来メールでのやりとりが続いていた。日本に来たときは私の家に泊めてあげるという約束があり、二泊だけだけど一緒に過ごすことになった。

彼女を泊めることになつて私は家族がうまく対応してくれるかが心配だったけれど両親は喜んでお土産まで用意してくれたし、一生懸命英語で話をうなづいていろいろなものを見てもらおうとがんばつてくれた。彼女も今勉強中の日本語でしゃべるうとしていた。言葉は通じなくてもなんとなく言つてゐる

つりは、なんと吉本興業の桂三枝師匠がお越しになられて、代官役を演じておられました。そのためか、今年は観客が昨年よりも多く、観客の方々もとても興奮されている様子でした。またステージ上では三枝師匠のギヤクが飛び出すなど、三枝師匠の色が強く、例年以上の盛り上がりを見せた時代激まつりとなつたのではないかと思つた。

しかし、今年は大成功でしたが来年はどうなるのか？芸能人を呼んだ為に、来年従来通りに進行させると今年よりも盛り上がりに欠け、面白味も減少してしまつような気がします。別に来年も芸能人を呼んでし

欲しきといつてゐる訳ではなく(三枝師匠が西川町と関わりのある方だということも承知していります)、

来年は来年で今年の時代激まつりに負けないよう

なスケールの大きなものにしなければならないといつてプレッシャーをうえられ、窮屈に立たされてしまつたのではないかといつことを言つたいのです。余計なおせつかいだとは思いますが、これが私が今年の西川時代激まつりに参加して感じてしまつた危機感なのです。

これが分かるみたいで心があれば通じるのかな？

と思った。

彼女の到着した日はお茶を飲みながら明日の予定や、今までの旅行のことなど少しご話をする程度で早めに休み、次の日にアメリカ研修旅行に行つた人たちとふるさと村に行つたり、笛川邸を見学したりすることにした。彼女は古い家を見てみたかったらしく、興味を持つてみていた。時々これは何？と聞かれたけれど、うまく答えられなくて困つた。日本のことと英語で説明するのはとても難しく、知識不足を感じてしまつた。

最後の日は午前中は神社についてみたり、紙風船を作つているところを見つたりして結構忙しかつた。七五三の子供がたくさんいたので、彼女はとても喜んで写真を何枚かとさせてもらつていて。外国人にとって着物といつのは特別なものらしい。

一日間といつのは早いもので、もうさよならの時間になつてしまつた。別れ際彼女は必ずまた会おうと言つてくれた。短い間だつたし、私も英語がよくできるわけではないのできっと不便な思いをさせたかも知れないけど一緒に過ごすことができてよかつた。

こんどは彼女の家に遊びにいけるらしいなと思つた。彼女の家に遊びにいけるらしいなと思つた。昭和38年、大学院に入ったばかりの年の学園祭を見ることができない。11月23日、学園祭の会場でケネディ大統領暗殺のニュースを聞いた。当日は通信衛星による、日米間の初めてのテレビ中継が行われることになつており、ケネディ大統領のメッセージが放映された。現在では、通信技術の進歩が大リーグの中継などを日常茶飯事にしている。

紅翔祭も6回目を迎へ、大学内外に定着してきました感がある。新潟西農協赤塚支部の野菜販売も恒例になってきた。紅翔祭での地域の人々との交流や西川など周辺地域のお祭りへの参加、住民参加の公開講座などを通じて、大学が地域の核として認知され、定着していくことは嬉しいことである。今年の紅翔祭では、惜しむらくは夢のある企画や展示が少なかつたこと、大学の設備を活用して新しい情報技術(インターネットなど)を体験してもらう場を来場者に提供できなかつたことが残念であった。

湧

YUUGEN

編集後記に代えて

広報委員長 竹並 輝之